

# 突風に伴う当面の農作物管理について

気象災害対策H28-1  
平成28年4月18日  
農林総合研究センター

## 1 気象の状況

4月17日、急激に発達した低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、県内は午前10時頃から各地で南からの強風が吹き、局地的に30m以上の突風を伴った。

このため、育苗期間中の水稻ハウスやぶどうハウスを中心として、ビニールの破損被害が発生しており、強風による技術対策が必要となっている。

(参考) 各地の最大瞬間風速

金 沢	： 37.5 m	( 11時41分)
輪 島	： 35.7 m	( 11時45分)
かほく	： 31.2 m	( 10時31分)
羽 咋	： 30.1 m	( 12時29分)

## 2 当面の農作物管理対策

### (1) 水稻

#### ① 風害の軽減

ハウスのビニールが破損した場合は速やかに交換・補修し、保温に努める。

また、補修までの間は、ラブシートや寒冷紗等により苗を被覆し、損傷を防止する。ビニールを用いる場合はトンネル状態とし、直接、苗に被覆することは避ける。

なお、強風が長引く場合は床土の乾燥・苗の水分蒸散を防止するため十分な灌水を行う。

#### ② 今後、育苗箱が過乾燥や過湿とならないよう、水管理には特に留意し、窒素の追肥は回復状況をみて施用の可否判断をする。

なお、風による苗の被害が大きい場合は、蒸散防止剤(グリーンナー30倍液：80cc/箱)の葉面散布を行い、苗の消耗を軽減する(使用に当たっては注意事項を厳守する)。

#### ③ 出芽途中の苗はハウスビニールの補修までの間、出芽器の加温器を切り、育苗ハウスへの搬出は控える。ただし、芽が2cm程度伸びた場合は、育苗ハウスにならべ、ラブシート及び寒冷紗等で苗を被覆し、補修又はビニールを張るまでの間、苗の損傷を防止する。ただし、気温の上昇が懸念される場合は、ヤケ苗にも注意する。

#### ④ 催芽した籾は、屋外の日陰等、水温が10℃以下となる場所で浸漬し、ハウスの補修が終えるまで播種を控える。ただし、水の入れ替えはこまめに行い10日間を限度

とする。

## (2) 野菜

### ① 施設野菜の管理

復旧可能なハウスにおいては、パイプの復元・補強を図り、ビニールの張り替え・補修を行う。

栽培作物は誘引支柱を矯正し、脱水症の回復のため灌水し、殺菌剤と液肥の混合散布を実施する。

数日後回復をみて、被害花（果）や茎頂の切除を行い、正常（花）果や側枝等の生育促進を図る。

### ② 露地野菜の管理

トンネル及びマルチ等フィルムのみくれば速やかに復元するとともに、潮風害が懸念される圃場は散水して除塩する。生育初期の作物においては、土寄せ等をして苗を直立に矯正する。

脱水症の回復のため灌水し、殺菌剤及び液肥、尿素等の速効性肥料を施用する。

## (3) 果樹

### ① 果樹ハウスの補修

- ・ ゆるんだハウスバンドを締め直すなどビニールを張り直す。特に妻部を中心にパッカー等でビニールをしっかりと固定する。
- ・ パイプの接合部にゆるみがないか点検し、ゆるんでいる場合はしっかりと固定する。

### ② 果樹棚等の補修

- ・ 果樹棚は「あおり」による棚面の上下動を少なくすると被害は少ないので、架線に添え木で補強する。また、架線はできるだけ強く張り直す。
- ・ 枝幹等を架線にしっかりと固定しているか点検する。
- ・ わい性りんごの1本支柱の倒伏等の被害があった場合は行、列ともワイヤーで決線固定し、支柱を元に戻し、樹を支柱に結び直す。またトレリスは張り直す。
- ・ 防風ネット等防風施設を点検し、必要に応じて補強する。

### ③ 倒伏樹や枝折れ等の処置

- ・ 倒伏樹は速やかに起こし、三方から支柱を添え、再倒伏しないよう補強する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ・ 枝折れ等被害状況を確認して、対策の必要な場合は所用の処置を実施する。

### ④ 殺菌剤の散布

- ・ 葉や新梢が傷ついた場合、地域の防除暦等に準じて、保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

⑤ ハウスぶどうの花振り防止

開花期を迎えているデラウェア園で強風を受け、花振りが発生した例があるのでハウスビニールの破損で強風を受け、花振りが心配される場合はフルメット2～3ppmを処理して花振りを防止する。

(4) その他

「気象災害対策マニュアル（農林水産部 平成20年3月発行）を参照し、現地の状況に応じて対策を行う。